

令和4年度 江戸川区立篠崎第三小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	「かがやけ篠三っ子」 かみがえる子(重点目標) がんばる子 やさしい子 けんこうな子 ○教師力の向上 ○学力力の向上 ○保護者や地域との連携	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	学校像:児童中心に学校・教師・地域が手を携えて教育活動に邁進できる学校。 児童像:かみがえる子、がんばる子、やさしい子、けんこうな子 教師像:教師力向上のために努力できる教員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>確かな学力の定着に向け、確かな学力向上推進プランに基づいた授業を行い、補習等個に応じた指導を継続してきたことで、学力向上に向けての基礎作りができた。また、生活面では、豊かな心づくりの取組を行い、学校全体として、児童は落ち着いて学校生活を送ることができた。</p> <p><課題>学力調査の結果は、徐々に向上しているが、都や全国の平均と比べると依然低い状況であった。また、生活指導面では、個別の支援が必要な児童について組織的に対応していくことが必要である。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	○「確かな学力向上推進プラン」に基づいた指導の実践 ○補習の実施による基礎・基本の定着 ○教員の授業力向上	○確かな学力向上プランに基づいた年間指導計画や個別指導計画に基づいた、系統性のある指導を実践 ○補習・放課後学習教室の実施 ○家庭学習週間における、eライブラリアドバンスの活用、家庭での学習習慣の定着 ○朝学習での東京ベーシックドリルの活用 ○教員の授業力向上を図る研究・研修の実施	○学級担任による年35回以上の補習の実施 ○学力格差解消担当教員による週4日の補習 ○外部講師による週5日の補習 ○年間3回の家庭学習週間の実施 ○教員への年間3回のICT研修の実施 ○児童への年間6回のICT補習の実施 ○年間5回の校内研究授業実施	A	B	B	○まずは国語力の向上だと思う。国語力が向上することで、算数の文章題など問題の理解が進むと思う。 ○子供同士で教え合うことで、教える側も教わる側も子供自身の理解が深まる。 ○小学校の学習は基礎なので、まずは基礎をきちんと身に付けさせてほしい。	○次年度も校内研究の教科・主題は変わらない。今年度取り組んだことを共通理解を図り、系統立てていく。 ○学力格差解消推進校3年目として、学力向上担当教師、学力向上委員会による各種調査の分析や情報共有、補習の充実をより一層図る。 ○次年度よりICT総合活用支援業務委託事業者が変更になり、それに伴って学習ソフトも変更となる。マイシードの研修を行い、授業でのスムーズな活用ができるようにしていく。
	体力の向上	○「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	○体育学習の充実 ○体力の向上 ○運動遊びの実施	○毎時間、密を避け空間を保持した状態での体育学習を実施 ○「体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果」を分析 ○休み時間を活用した週1回の運動遊びの実施(1学期は中止)	B	B	B	○工夫しながらその時にできることをやっていたと思う。体育学習発表会や体力テスト等、異学年交流やこべ学級との交流ができて良かった。 ○子供の体力はコロナによって全体的に落ちていると感じる。	○次年度よりコロナの扱いが変わることで、行事の在り方も変わってくる。元に戻すのではなく、今の学校にあった体育学習・体育学習発表会を計画し実施していく。 ○運動遊びの計画的な実施、持久走やなわとびの全校での取組などを通して、運動の日常化を図り、体力の向上をめざす。
	読書科の更なる充実	○読書を通じた探究的な学習の実施・充実	○各教科や総合的な学習の時間等において、一人一台端末と図書館の蔵書を併用した主体的で探究的な学習活動の実施 ○朝読書の実施 ○学校司書を中心とした学校図書館の整備 ○学校応援団である図書ボランティアによる読み聞かせ・図書館整備・学級文庫の整備	○各教科や総合的な学習の時間等において、一人一台端末と図書館の蔵書を併用した主体的で探究的な学習活動の実施 ○朝読書の実施 ○学校司書を中心とした学校図書館の整備 ○学校応援団である図書ボランティアによる読み聞かせ・図書館整備・学級文庫の整備	B	B	B	○学校応援団の図書ボランティアはよく活動をしている。今後もPTAとの連携を図っていく。 ○図書館のようなPCによる蔵書管理ができると良いのでは。	○読書科コンクールや調べる学習コンクールへの参加、6年生による1年生への読み聞かせ等、活動の充実を図る。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	○特別支援学級との日常的な交流 ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ○副籍交流、及び共同学習の充実	○はこべ学級との連携 ○個別指導計画と個別の教育支援計画に基づいた指導の実施 ○鹿本学園児童との交流 ○特別支援校内委員会の開催 ○特別支援教室 巡回指導教員による校内研修の実施	○通常学級とはこべ学級の交流授業 ○行事での連携(学年とはこべ学級で合同) ○副籍交流(読み聞かせ)の実施 ○月1回以上の開催。特別支援教育専門員や巡回指導教員、SC、巡回心理士、SSW等も参加。 ○年に1回、教員への研修の実施	B	A	A	○感染症予防対策の為、通常の活動は難しいが、できることを頑張っている。はこべ学級との交流は篠三小の特色だと思われ、以前からよく行われていたので、これからも続けて欲しい。	○今後もコロナの状況を見ながら、感染症予防対策に努め、児童の実態に合った交流学習や行事との関わりを実践していく。 ○校内委員会では、対応策に的を絞ってより良い話し合いをするため、こども委員会での記録を前もって目を通してから校内委員会に臨むことを確認した。また、校内委員会の記録の共有ができるよう、会議の記録をデータで残し、校内委員会以外の教員も確認することができるようにしていく。
	健全育成に向けた取組の強化	○いじめ・不登校の未然防止・早期対応に向けた取組の充実	○生活指導夕会における情報の共有 ○生活指導全体会における情報の共有 ○いじめ対策委員会・不登校対策委員会の開催	○週に1度の実施 ○学期に1回の実施 ○月に1回以上の実施 特別支援教育専門員や巡回指導教員、SC、巡回心理士、SSW等も参加。	A	A	A	○今後も継続してほしい。	○今後も生活指導夕会、全体会等、定期的に行い、情報共有を図り組織的に対応することができた。また、会以外にも、教員同士で共有を図っていく。 ○記録をしっかりとし残り学年が変わっても情報を引き継いでいく。
	子供たちの健全育成	○子供たちの健全育成に向けた取組の強化	○より良い学習・生活習慣の育成 ○保護者との連携(会話、連絡帳等) ○生活リズムカードの実践と分析 ○道徳教育の充実 ○ハイパー・QUの実施 ○江戸川区区子どもの権利条例の理解	○学校全体で称賞や励ましの指導を実施 ○学期に1回実施。家庭との連携の下、児童が自分で良い生活習慣を選び、行動する力を養う。 ○1学期にハイパー・QUの実施。結果を学年・学級で分析。2学期からの指導に生かす。	B	B	B	○今後も継続してほしい。 ○長年のマスク生活が、子供たちの心に深い影響を及ぼしているような気がする。	○今後も家庭と連携をとりながら、子供たちの心身の健全育成を図っていく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	○年2回の学校評議員会の開催 ○年1回・保護者・教員の学校評価実施 ○行事後の保護者アンケート実施	学校の様子を知ってもらうために ○1週間に1回程度HP更新 ○月に1度の学校だより、学年だよりの配布。HP更新 ○年4回の学校公開の実施 ○「いきいきと学ぶ学校づくり」「特別支援教育の充実」「教員の資質向上」「特色ある教育の展開」での成果と課題について、学校関係者評価の実施・改善	B	B	B	○ここ数年、コロナで学校行事を見に行くことができなかったが、今年は子供たちの様子を実際に見に行くことができて良かった。	○2学期は学習発表会、3学期は学校公開や卒業を祝う会等、子供たちの様子を見て頂くことができた。また学校の様子をHPやおたよりで伝えることができた。
	地域学習の充実	○篠田堀親水緑道・江戸川の自然、生き物、歴史、環境を題材にした学習活動	○6年生による篠田堀ボランティア清掃活動 ○3年生による篠田堀調べ学習(外部講師:子ども未来館)・小松菜農家見学 ○5年生による工場見学(王子製紙) ○3年生による工場見学(江戸風鈴) ○1、2年生による地域巡り ○はこべ学級による校外学習(ポニーランド)	○年1回以上の実施 (○3年生が学んだこと・調べたことを発表)	B	B	B	○学校の周りには篠田堀やポニーランドがあり、非常に恵まれていると思う。この環境を学習に活かし、環境教育に目を向けることのできる子供たちを育てたい。 ○篠田堀は近々20周年を迎える予定で、お祭りを計画することになる。篠三小の子供たちにもぜひ関わってほしい。	○今後も地域との連携を図った教育活動を実践していく。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	○「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	○校務分掌組織の改善 ○会議の精選 ○C4thの連絡掲示板やTeamsの活用 ○SSSや副校長補佐の活用と連携 ○SSWや児童相談所との連携	○会議時間の縮減 授業準備の時間を確保 ○プレミアムDayの設定と実施(学区域見守り、定時退勤日) ○月残業80時間の教員をゼロにする。在校平均時間も4月の10時間48分から2月には9時間59分へと月45時間以上残業が14名から9名と減らすことができた。	A	B	B	○具体的な取組や数値目標を見ながら話を聞いていると、先生たちの仕事量の多さや大変さを感じる。学校だけの取組だけではなく、江戸川区として、学校への負担を減らすためにはと、考えていく必要があるのでは。	○年度初めはどうしても在校時間が長くなってしまいう傾向があるので、4.5.6月の分析をして、業務の見直しを検討していく。 ○会議の時間短縮を図るため、運営委員会で提案するもの、夕会で伝えるものに分け議題の精選を行った。次年度改善した効果がでているかを検証していく。
	異学年集団での活動	○異学年縦割り班での交流遊び(ハッピーフレンズ)の設定 ○クラブ活動・委員会活動	○6年生が計画を立て異学年で工夫した遊びを楽しむ活動 ○登校班会議での顔合わせと登校班での登校 ○クラブ活動における、4・5・6年生による異学年交流活動	○年4回の活動 ○4月・10月・3月に実施 ○クラブ活動は年12回の実施	A	A	A	○異学年交流は篠三小の特色だと思われ。今後も続けてほしい。	○今後もコロナの状況を見て、感染症予防対策に努めながら異学年交流を進めていく。(ハッピーフレンズ・篠三まつりなど)